

授業科目名	臨床心理学	単位数	2
担当教員名	平 雅夫	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	社会福祉法人トポスの会の理事であり、発達障害者就労支援センターゆに(UINI)のセンター長を務めている人。平素から、現場で障害を持つ子どもたちに接している職員に対して、理論的に支援方法を指導し、実践している。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 ・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床心理学の歴史と背景について理解を深める。 (2) 臨床心理学的発達論について理解を深める。 (3) 臨床心理学の諸理論について理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>近年、「ひきこもり」「適応障害」「不登校」「自殺」「うつ」といった『こころ』のとの関連を意識させる社会問題がマスコミを中心に連日のように取りざたされている。実際「不登校」こそ横ばいであるものの、取り上げた「ひきこもり」「適応障害」などは増加の一途をたどっている。まさに、現代は『こころ』の時代ともいえ『こころ』の問題の解決は、時代の要請ともいえるだろう。そうした時代の要請もあって『こころ』の援助活動であるカウンセリングへの注目が高まってきている。</p> <p>こうした現代にあって、カウンセリングを実践する者に要請されることが、カウンセリングという臨床実践には、心理学に関する系統的な知識が不可欠だということを自覚し、常に知識をブラッシュアップする態度を維持することである。</p> <p>『こころ』には、実体がない。あくまでも心理学による理論仮説に基づくものである。すわなち、理論仮説のない臨床を実践してはならないのである。</p> <p>以上を踏まえ本科目では、心理学の研究成果の応用と臨床実践から生じた援助技法を統合した臨床心理学を学びつつ、『こころ』に関わるものとしての知識の基礎づくりを学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：臨床心理学の歴史</p> <p>第2回：臨床心理学の背景</p> <p>第3回：人間性心理学誕生の歴史的経緯について</p> <p>第4回：臨床心理学的発達課題</p> <p>第5回：臨床心理学的発達課題への危機</p> <p>第6回：臨床心理学的発達課題への援助</p> <p>第7回：精神分析学の理論と技法</p> <p>第8回：行動心理学の理論と技法</p> <p>第9回：人間性心理学の理論と技法</p> <p>第10回：精神分析学・行動心理学・人間性心理学理論の人間観</p> <p>第11回：精神分析学・行動心理学・人間性心理学理論の性格形成論</p>			

第12回：構成的グループエンカウンター 基礎編
第13回：構成的グループエンカウンター 応用編
第14回：カウンセラーの倫理
第15回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容

臨床心理学の歴史を確認することによって知識を深め、臨床心理学的課題への援助について考察していく。また、精神分析学・行動心理学・人間性心理学理論の人間観を比較検討した後、構成的グループエンカウターの基礎を実践として身に付けていく。
(主に第1回、第6回、第10回、第12回の内容を含む。)

教科書

(1) 平木 典子・褓岩 秀章 編著 (1997) 『カウンセリングの基礎 - 臨床の心理学を学ぶ』 北樹出版

参考文献

特になし

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。